

共立女大家政 ○小川 文代  
小野寺瑞代

1. 三村信之氏は女子学生の蔗糖に対する感受性が学業開始前よりも終業後のほうが増加すると述べている。また近内康夫氏は男女工員の甘味の感受性は労働作業開始前の朝と作業終了後の夕方では夕方のほうが敏感になっていると報告している。今回私共は女子学生が1日のうちで味覚がどのように変化するものであるかどうかを、鹹、甘、酸、苦味について調べ、三度の食事の摂り方の資料にもなればと考えた。

2. a) 被検者として女子大生20名を中心に高校生、老年者をも併せ行なった。b) 味覚検査剤として鹹味→食塩、甘味→蔗糖、酸味→クエン酸、苦味→塩酸キニーネを使用した。c) 検査時刻は朝起きがけの朝食前、昼食前、昼食後、帰宅後の夕食前、夕食後とした。d) 期間は春秋の気温 $20^{\circ}\text{C}$ 前後の季節に行い、被検者20名の各人が一つの味覚について継続1週間づつ行った。e) 検査液は50cc入試薬瓶8本のはいる携帯用箱をつくり、自宅あるいは寮で行ない、申告用紙は検査毎に回収した。f) 閾値査定は全口腔法により判断閾値をとった。

3. a) 朝食前が4つの味覚とも最も鈍く、帰宅後夕食前後が最も鋭い。これでは有意の差が明かに認められた。b) 食前と食後では有意の差が見られなかった。c) 4つの味のうちその変化の状態は必ずしも一様ではない。甘味の変化は著しく、苦味の変動は少い。